

1 単元名 「地域との繋がりを自分たちからつくっていこう～生徒会活動～」

2 単元の目標

- 中萩校区の地域を知り、地域の一人として、地域との繋がりの大切さについて理解することができる。(知識及び技能)
- 生徒総会で生徒から出た提案を基に、持続可能なまちづくりについて考え、ウォークラリー（プロジェクト）の企画・運営ができる。(思考・判断・表現)
- 地域の未来について、地域の様々な方と対話を重ねながら、持続可能なまちづくりのために自分たちでアイデアを出し、地域の一員として主体的に行動することができる。(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

地域活動は、公民館やまちづくり運営協議会を中心に地域の方がさまざまな活動を企画・運営をしてくださっている。そのなかでも公民館が中心になり、平成17年度から小学生の休日の活動として「はぎっ子テン」という小学生の地域活動が始まった。昨年度からは、公民館からの要請で地域を盛り上げていくために中学生がサポート的な立場での参加も始まり、月1回の活動が充実している。これらの活動は、コミュニティースクール、地域協働の大きな役割を担っている。現在は、公民館が中心で行っている「はぎっこテン」、また、まちづくり協議会が主催の地域行事の一部を中学生が運営・企画を担うことで地域の一員として、地域を更に活性化していくきっかけとなると考える。今現在、中学生にとって地域行事は、地域の方に支えてもらっているという感覚が非常に強い。中学生が発案、発信の地域を取り込んだウォークラリーを企画・運営することは、コロナ禍で地域との結びつきが弱くなってしまったつながりも戻す起爆剤にもなり学校、地域協働のきっかけとなる。

(2) 生徒観

中萩校区は一小一中の校区である。今年度の生徒総会では、生徒からコロナ禍で弱くなった地域との繋がりを取り戻すことへの意見が多くみられた。地域学習は、小学校では、地域の歴史や文化について学び地域の良さを共有した。また、環境学習を通して、住みよいまちづくりを目指そうとした。また、福祉教育において、地域の人々との交流からより良い福祉を想像しようとする態度を育んできた。中学校では、その学びを基に校区の枠を超えて、市内全域の視点から旧別子銅山の登山や職場体験学習などを通して、自分たちの住んでいる中萩校区の良さを再発見できるようになってきている。2年間はコロナ化で地域行事は皆無であった。その中学3年生が地域の一員としてどのような行動ができるか、自分の成長や相手のことも考えながら取り組む意義は大きい。地域のことについて学校外の地域の大人と対話することは、今後の社会との繋がりを持つことにも発展できるのであろう。生徒会活動で主体的に地域の行事の企画・運営を経験すること

は主体性を育む、教育的効果も期待ができる。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、地域の良さを知り、自分たちの住む場所に誇りを持ちながら、さまざまな人に支えてもらいながら中萩校区があることに気付かせたい。生徒総会、生徒会リーダー研修会で案を練り合うと同時に、校区防災訓練や「はぎっこテン」などで実際に既存の地域行事に参加していくことで、地域と繋がることで自己有用感を体験させる。教師は、生徒会の主体性を大切にしながら、あえて失敗も認め、最小限の支援をしていく。

そして最終的に地域を取り込んだ形で生徒会主催のウォークラリーの企画・運営を展開する。これらの活動を通して、校区の中学生が、地域にどのように貢献できるかを考えさせたい。また、今後一人の大人として社会の担い手として生きていくヒントにもなると期待できる。

活動後には目的達成ができたかの振り返りを行う。場合によっては、まちづくり協議会にも参加し、今年度の課題は来年度にも生かせるように引き継ぐ。そして、個人の振り返りも行い、持続可能な取り組みとして来年以降の地域活動にも繋げていくようにする。

(4) ESD との関連、

・ 本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

相互性…現在の中萩校区の子どもは、はぎっこてん、運営協議会、公民館など多くの方にお世話になっている。今後は自分たちで主体的に安心安全な校区にしていくために、地域に対して主体的に活動することが、持続可能なまちづくりになること。

公平性…中学生になり横のつながりが多いが、異年齢での縦のつながりは薄い。(今年度から中学校の運動会で縦割り活動を実施) 持続的に地域を盛り上げていくために、活動が1回で終わるのではなく、繋がっていけるよう活動が必要であること。

連携性…地域の方が中心になって地域を盛り上げている現状であるが、中学生がリーダーシップを発揮し、地域の人と繰り返し対話を重ねながら合意形成していく必要がある。

責任性…生徒会役員の任期は1年であるが、生徒総会で出た意見を具現化するためにそれぞれが自分事として捉え、チームで協力しながら責任を持って課題を遂行する責任、下級生や後輩に伝えていく責任がある。

・ 本学習で育てたい ESD の資質・能力

批判的に考える力

今現在の地域活動を「してもらっている。」として受け身で捉えるのではなく、中学生の視点で見直し、自分事として新たな発想で地域活性化のアイデアを出す。

未来像を予測して計画する力

中萩校区の20年後、30年後を想像し、そこで社会の中心となって地域に貢献している自分をイメージし、今すぐ中学生として行動できることを考える。

多面的・総合的に考える力

地域の人は、さまざまな立場の方がおり、それぞれ安心安全に生活を送ろうとしている。さまざまな角度から地域の願いを考え、その一部を実現しようとすることを考える。

つながりを尊重する態度

同世代の間はもちろん、異世代との交流やさまざまな立場の人とコミュニケーションをとり、繋がり新たな仲間を増やしていく。

進んで参加する態度

自分から行動することで周りが増え、様々な人の心を動かし、それが地域を支える力となる。自分の行動が地域を動かす原動力になることを理解する。

・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間・世代内の公正

同世代だけでなく、異学年や小学生、地域の高齢者など、すべての世代にとって、社会に貢献することは持続可能な普遍的な取り組みになる。

人権・文化を尊重する

地域の人を知り、認め、より安心安全に過ごせるよう行動することが、持続可能な社会に繋がる。

幸福感に敏感になる、幸福感を重視する

人によって、それぞれの幸福感は異なる。マイノリティーの視点も持ち、尊重することで社会全体の幸福感を生み出せる。

・ 達成が期待される SDGs

3 すべての人に健康と福祉を 10 人や国の不平等をなくそう

11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナリシップで目標を達成しよう

4 単元の評価規準

ア 知識及び技能	イ 思考力・判断力・表現力	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 中萩校区の現状を理解し、はぎっこテン、ウォークラリー) などの地域行事の意義について理解している。 ② 調べたり、学んだりして得た知識を目的に応じて言葉や写真を関連付けながらまとめる技能を身に付けている。	① これからの地域の発展の在り方についてブラッシュアップしながら対話を重ね、考え、適切に判断している。 ② 地域について学んだことから、自分たちが伝えたいこと、行動することを整理し、相手によって方法を選択し、表現している。	地域貢献のために、中学生である自分たちが持続可能な社会の担い手であるという自覚を持ち、仲間や地域の方々と連携し、地域の課題解決のために失敗を重ねながらも行動しようとしている。

5 単元の指導計画 (全10時間)

次	学習活動 (予想される生徒の発言や考え)	学習への支援	評価 (◎) 備考 (・)
1	○ 全校生徒にアンケート (地域とのつながり) ・ レクリエーションを小学生としたい。 ・ ウォークラリーを地域で行いたい。	・ ロイロノートのアンケート機能を利用して、意見を集約する。	ア①②

2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒総会で意見発表をする。(ウォークラリー) ・隣の校区行っているやり方を参考にする。 ・小学生と一緒に校区を巡り、危険地域や避難場所を確認したい ・校区の良いところを発見したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な内容や方法について代表学級が発表し、生徒会が意見交換がスムーズにできるように支援する。(PTA会長、公民館長、地域の代表の方も参加し、意見を聞いてもらう。) 	ア② ウ
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内リーダー研修会で実施内容を検討する ・生徒会を中心に企画・運営を行いたい。 ・公民館発信のインスタで広げたい。 ・秋が涼しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会が中心となり、企画運営ができるように、さまざまな意見を形にまとめていけるように支援する。(PTA会長が参加) 	ア① イ①
4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 防災リーダーとして、校区防災活動に参加する。 ・AEDの使用方法、土嚢の作り方、段ボールベッドの組み立て方についてマスターしたい。 ・災害時に地域のリーダーとして活躍できるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方のサポートをしてもらいながら、生徒会役員、3年生が中心となり地域防災訓練に参加し、翌日の中学校の防災訓練のリーダーとして指導的な立場で活躍できるように自覚を持たせる。 	ア① イ① ウ
5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 月1回土曜日開催の「はぎっこテン」のボランティア活動に参加する。 ・積極的に参加したい。 ・小学生が活動を楽しめるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館の方の指示のもと、小学生の活動のサポートを行う。 	ア① ウ
6 7 8	<ul style="list-style-type: none"> ○ウォークラリーの企画・運営を行う。 ・小学生が安全にウォークラリーに参加できることを第一に考えたい。 ・避難所や危険箇所を確認したい。 ・地域の良いところを発見したい。 (新幹線の生みの親「十河信二」さんクイズ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画・運営を生徒会とまちづくり協議会とコラボし、地域への貢献や協働して作り上げることのすばらしさを感じることができるように支援する。 ・ケーブルテレビなどメディアにも取り上げてもらう。 	ア①② イ①② ウ
9 10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現生徒会の地域への活動を振り返ろう。 ・はぎっこテンの活動に更に積極的に参加する方法を考えたい。(Googleフォームでアンケートを実施) ・地域の防災教育、ウォークラリーの活動の改善点を来年に生かしたい。 ・地域との結びつきを更に活性化させるために、次期生徒会役員に引き継ぎたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間を通して生徒会として地域貢献への課題と成果を全体で出させる。 ・自分たちの自己満足で終わってないか、持続可能な取り組みになったかの視点を持たせる。 	ア① イ①② ウ

【地域との活動】

(1) 公民館主催

はぎっこテン (毎月1回ボランティア活動)、ミレミアム花壇 (園芸活動)、三世代交流会

(2) まちづくり協議会主催 (自治部会、教育部会、防災防犯部会、福祉部会)

小学校プール清掃、校区防災訓練、ウォークラリー、ほたる祭り、校区文化祭